



### 「キラリと光るオンリーワン企業の創出・支援をめざして」

商工労働水産部長 田 中 和 彦

このたび、4月1日付けで商工労働水産部長に就任しました田中です。

県内企業及び関係団体の皆様には、かねてから本県産業の振興に多大な御尽力、御支援をいただき深く感謝申し上げます。

現在、グローバル経済の下で世界的に産業構造の変化が起きているとともに、国内では本格的な人口減少や超高齢化社会が到来しているなど、時代の大きな変革期にあります。

県といたしましては、県民一人ひとりが希望をもって生活できるようにするためには、将来を展望できる生涯生活設計を描けるよう、仕事・生活・絆の「3つの安心」の実現が重要な課題であると考えています。

特に、「仕事の安心」を確保するためには、鹿児島県の地域特性等を生かした産業を振興し、働く場そのものを増やすことが何よりも重要であると考えており、「新時代に対応した戦略的な産業おこし」の実現に向けて、平成24年度も引き続き、「かごしま製造業振興方針」に基づいて、「地域資源を生かした新産業の育成」や「オンリーワンの技術によるキラリと光る企業育成」、「産業人材の育成・確保」など6つの観点に重点を置いた施策を展開し、県内企業の新たな製品開発や販路開拓等の支援を積極的に行ってまいります。

具体的には、企業が行う研究開発、人材育成等の取組を一体的に支援する「ものづくり重点業種支援事業」、中小企業者と農林漁業者が連携した「農商工等連携推進事業」などを引き続き実施するほか、今年度新たに、県内中小企業の若手経営者や後継者等を対象に、経営哲学やマーケティング等をテーマとした実践講座等を開催する「かごしま若手経営者育成事業（産業おこし郷中塾）」、急激な円高等の影響を受ける県内中小企業を対象に、取引面談会の開催や県外商談会への出展支援を行う「円高等対応緊急販路開拓支援事業」などに取り組むこととしております。

このような中、工業技術センターは、県内企業のニーズや時代の要請等を的確に捉え、県内企業

の「技術的抛りどころ」として、技術的課題の解決や新たな革新的技術の開発を通じて本県産業の振興に寄与することを役割としています。

これまで、県内企業のニーズに基づき、輸入木材との競合による価格競争に対抗できるよう県産スギ材の付加価値を高めるための大断面・中小断面集成材の研究開発や、地域資源であるシラスの新たな活用用途としてのシラス緑化基盤やシラスブロック、シラス瓦等の研究開発等にいち早く取り組み、県内企業へ技術移転するなどの成果を収めてきているところであります。

このように、県内企業と公設試験研究機関、更には大学等が一体となって、革新的技術による新たな市場を創造することこそが、足腰の強い本県経済の基盤を築く上で、より一層、重要性を増すものと考えております。

このため、今年3月に策定した「工業技術センター中期業務計画」に基づき、技術支援機能の強化並びに「地域資源付加価値創出」と「ものづくり基盤技術高度化」につながる研究開発機能の高度化を着実に実現していくことが求められます。

また、本県の基幹産業である農林水産業の持続的発展を支え、農林水産物の付加価値を高めるために、工業技術センターと農業開発総合センターや森林技術総合センター、水産技術開発センターが相互に連携し、生産現場や県内企業が直面している課題を解決するとともに、新たな技術革新を見据えたシーズ研究に取り組むことも重要なテーマであります。

さらに、九州・沖縄各県の公設試験研究機関をはじめとする広域連携ネットワークを活用して、先端的な技術に関する知見を高めていくことが必要であると考えています。

地域とともに歩んできた工業技術センターも今年12月で創立25周年を迎えます。

皆様におかれましては、今後とも新製品や新事業の創出に向け、工業技術センターを積極的に活用していただき、本県地域経済の活性化につなげていただきたいと考えております。